

なり。釈尊一体を造立する人は十方世界の諸仏を作り奉る人なり。譬ば頭をふればかみゆるぐ、心はたらけば身うごく。大風吹ば草木しづかならず、大地うごけば大海さはがし。教主釈尊をうごかし奉れば、ゆるがぬ草木やあるべき、さわがぬ水やあるべき。

今の日眼女は三十七のやくと云云。やくと申は譬ばさいにはかど、ますにはすみ、人にはつぎふし、方には四維の如し。風は方よりふけばよはく、角より吹はつよし。病は肉より起れば治しやすし、節より起れば治しがたし。家にはかきなければ盗人いる、人にはとがあれば敵便をうく。やくと申はふしぶしの如し。家にかきなく、人に科あるがごとし。よきひやうしを以てまほらすれば盗人をからめとる。ふしの病をかねて治すれば命ながし。今教主釈尊を造立し奉れば、下女が太子をうめるが如し。国王尚此女を敬ひ給ふ。何況や大臣已下をや。大梵天王・釈提桓因王・日月等、此女人を守り給ふ。況や大小の神祇をや。昔優填大王、釈迦仏を造立し奉しかば、大梵天王・日月等、木像を礼しに参り給しかば、木像説云、我を供養せんよりは優填大王を供養すべし等云云。影堅王の画像の釈尊を書奉しも又々（是の如し）。法華経云、「若し人仏の為の故に、諸の形像を建立す。是の如き諸人等、皆已に仏道を成じき」云云。文の心は一切の女人釈迦仏を造り奉れば、現在には日々月々の大小の難を拂ひ、後生には必仏になるべしと申文也。

抑女人は一代五千七百余卷の経々に、仏にならずときらはれます。但法華経ばかりに、女人仏になると説かれて候。天台智者大師釈云、「女に記せず」等云云。釈の心は一切経には女人仏にならずと云云。

次下云、**「今経は皆記す」と云云。**今の法華經にこそ竜女仏になれりと云云。天台智者大師と申せし人は、仏滅度の後一千五百年に漢土と申国に出させ給て、一切經を十五返まで御覽あそばして候しが、法華經より外の經には女人仏にならずと云云。妙樂大師と申せし人の釈に云、**「一代に絶えたる所なり」**等云云。釈の心は一切經にたえたる法門也。法華經と申は星の中の月ぞかし、人の中の王ぞかし。山の中の須弥山、水の中の大海の如し。是程いみじき御經に女人仏になると説れぬれば、一切經に嫌はれたるになにかくるしかるべき。譬ば盗人・夜打・強盜・乞食・渴体にきはれたらんと、国の大王に讚られたらんと何れかうれしかるべき。日本国と申は女人の国と申国也。天照太神と申せし女神のつきいだし給る島也。此日本には男は十九億九万四千八百二十八人、女は二十九億九万四千八百三十人也。此男女は皆念仏者にて候ぞ。皆念仏なるが故に阿弥陀仏を本尊とす。現世の祈も又**「是の如し」**。設釈迦仏をつくりかけども、阿弥陀仏の浄土へゆかんと**「おもう」**と思て本意の様には思候はぬぞ。中々つくりかゝぬにはをとり候也。今日眼女は今生の祈のやうなれども、教主釈尊をつくりまいらせ給候へば後生も疑なし。二十九億九万四千八百三十人の女人の中の第一也とをぼしめすべし。委は又々申べく候。恐々謹言。

弘安二年卯二月二日

日蓮 花押

日眼女御返事